

「人を元気にする力」

小池利和さん（さすがにテリーさんとは呼べない）の「紙つぶて」を半年間担当した。いただいた原稿の言葉遣いを新聞社流に直したり、事実誤認を指摘したりする役目だ。

文は人なりというが、小池さんの原稿は自らを飾ることがない。むしろ「私は運動が得意ではなく」（四回目）などと自身の不器用さや失敗談をたびたび話題にした。立場ある人でもこんなに率直に弱みをさらけ出せるものかと思っただけだ。全二十六回の連載の後半には剣道、自動車の運転、バイオリンと三週連続で不器用エピソードが披露された。

経営者に必要な資質や能力はいろいろあるだろうが、私は「周囲を元気にする力」が何より大事だと思うし、そういう人が好きだ。醸し出す雰囲気や言動で、周りの人間を明るく前向きな気分させ、モチベーションをかき立てさせる。そんな人と一緒に仕事がしたいと思う。

だから「人を元気にする力」がぼんぼん伝わってくる小池さんの原稿を読むのが毎週楽しみだった。この力は、カンフル剤のようなガンバリズムとは違う。ゴルフで弱者救済の「テリールール」をつくってしまうようなおらかさや（七回目）、ビジネスの基本は「人と人のふれあい」と真つすぐに言い切る素直さ（十七回目）から生まれるものだ。それが自然と周囲の人を温め、元気づけるのだろう。